イカリソウ　*Epimedium grandiflorum* Morr. var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。愛知県では生育範囲が限られており、分布域の西限にあたる。なお、今回の絶滅危惧Ⅱ類という評価は、夏緑性で淡紫色～紅紫色の花をつける狭義のイカリソウだけが対象である。

【形　態】

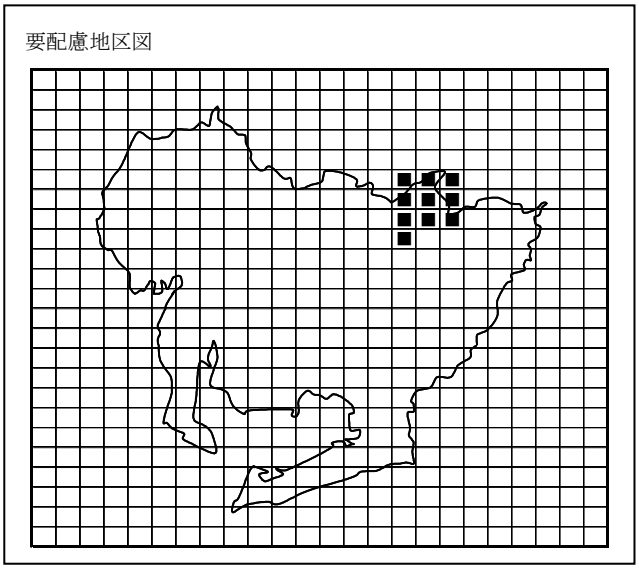
多年生草本。高さ 20～40cm になる。地下茎は丈夫で硬く、分枝して塊状になる。葉は 1～3 回 3 出複葉で、小葉は卵形、長さ 3～10cm、幅 2～6cm、先端はしだいに細くなり、鈍頭または鋭頭、基部は心形、辺縁には刺状の毛がある。花期は 4～5 月、花は総状または複総状花序につき、淡紫色～紅紫色で下を向いて咲く。がく片は 8 個、外側の 4 片は長楕円でやや小さく、早落性、内側の 4 片は卵状長楕円形で鈍頭、長さ 10～12mm である。花弁には長さ 15～20mm の距があり、そのため花は全体として船のいかり状に見える。

【分布の概要】

【県内の分布】
西：5 稲武（塚本威彦 2194, 1997-4-27）。確実に狭義のイカリソウと判断されるものは、他区画では確認されていない。隣接する岐阜県側では、やや普通に見られる。

【国内の分布】
北海道西南部および本州（東海地方以北の主として太平洋側）に分布する。

【世界の分布】
種の範囲を狭くとれば日本固有である。



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹の二次林内に生育する。スギ、ヒノキの造林地にも生育している。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林	○			
草･岩				
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

県内では稲武だけに生育している。区画内ではところどころに見られたが、次第に減少している。特に造林地内のものは手入れ不足で林床の光条件が悪化し、あまり花をつけない状態になっている。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で維持することが必要である。造林地の場合は、間伐等の適切な管理を行う必要がある。

【特記事項】

イカリソウ属は日本列島で多様に分化しており、愛知県はいろいろな型の接点になっている。三河山地には淡黄色の花をつけるキバナイカリソウ（ほとんど白色のものもあるが、これもキバナイカリソウの範囲内として扱うことにする）が多いが、これはここで言うイカリソウには含まれていない。

【関連文献】

保草Ⅱp.202, 平草Ⅱp.90, 平新版 2 p.117.